インドネシアにおける日本語教育の諸問題
―インドネシア教育大学の実例を中心にしてー

2010 年 3 月 20 日（土）
At 大阪大学箕面キャンパス日本語日本文化センター
アフマッド・ダヒディ
Ahmad　Dahidi

はじめに

日本のみなさま、日本語日本文化センターのみなさま、おはようございます。今日は皆様にたいへん貴重な機会を与えていただき、心より感謝申し上げます。

昨年の 11 月 3 日、4 日、マレーシア国際言語教員養成大学校（クアラルンプール）で開催された“大阪大学フォーラム 2009 :「東南アジアにおける日本語・日本文化教育の 21 世紀的展望　－東南アジア諸国と日本との新たな教育研究ネットワークの構築を目指してー」の時に、センター長の奥西先生が「2010 年の三月ごろ、大阪大学でインドネシアにおける日本語教育についてを発表なさいませんか」というお話をいただきました。私にとって、たいへん貴重な機会をご提供いただき、今回のシンポジウムに参加させていただいたことをたいへん光栄に思っております。

さて本題に入った後、（時間があれば）個人的なことを、特に始めて日本語を勉強した時とその日本に留学したときの体験を簡単にお話したいと思います。

さて、本題に入りますが、まずスライドをご覧ください。

１．インドネシアにおける日本語教育の事情

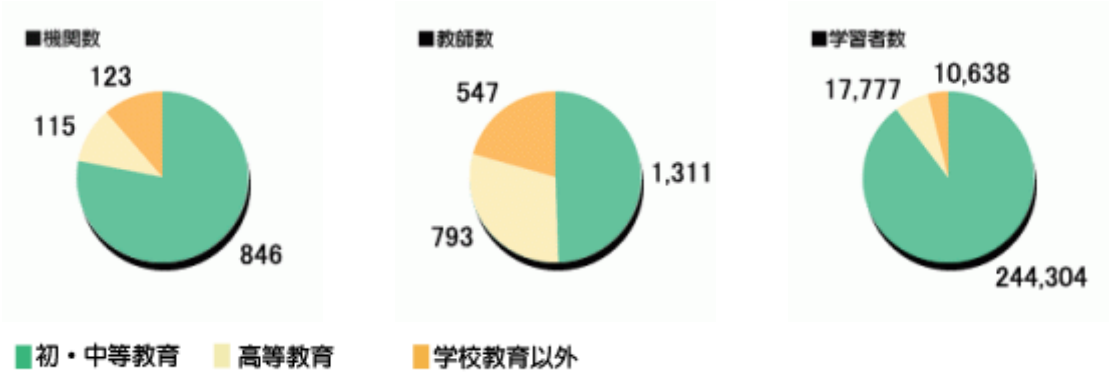
インドネシアにおける日本語教育は、これまでバンドンを中心とする西部ジャワ、スラバヤを中心とする東部ジャワ、観光地として有名なバリ、メナドを中心とする北スラウェシに集中していましたが、ここ数年、学習者の急増にともなって、各地で日本語教育機関も急増しています。このような日本語学習者の学習動機は、日本の文化に関する知識を得るため、日本の政治・経済・社会に関する知識を得るため、日本の科学技術に関する知識を得るため、大学や資格試験の受験準備のため、日本に留学するため、今の仕事で日本語を必要とするため、将来の就職のため、日本に観光旅行するため、日本との親善・交流を図るため（短期訪日や日本人受入）、日本語によるコミュニケーションが出来るようにするためといった理由が挙げられます。当インドネシア教育大学の学習者の場合には、教師志望者はもちろん、「先進国日本」というイメージから、日本語を学び、将来に活かしたいと考えている学生も多いです。言い換えれば、日本語教師志望及び日系企業への就職の二つが主な学習動機として挙げられます。（山本 2007，森西 2005 参照）。

その他、日本文化に関心を持つ学習者も非常に多いです。インドネシアではカラオケが非常に流行しており、日本の曲が入っている店も少なくないです。また日本の漫画およびアニメーションが大量に流れ込んできており、書店、テレビ番組（代表 :『ドラえもん』、『おしん』、『クレヨンしんちゃん』）、ビデオなどを通じて簡単に手に入り、簡単に見られます。日本商品も車から文房具にいたるまであらゆるものが町にあふれています。こうした社会背景の上に日本語教育は生まれ発展してきたと言えましょう。森西（２００５）もインドネシア（この場合、当大学の学生たち）が日本語を学ぶきっかけとなったのは、や

はり日本のアニメや漫画の影響が強いです。そのせいか、パフォーマンス能力が非常に高い学生が多いと述べています。

国際交流基金（２００６）によれば、現在、インドネシアにおける日本語教育に携わる高等学校や大学などが全国で１０８４校あると報告されています。（表１参照）

表１



（国際交流基金「2006 年海外日本語教育機関調査結果」より）

上記の表からわかるように、ほとんどの日本語の学習者は高校生です。

３．インドネシアにおける大学での日本語教育
（インドネシア教育大学日本語教育学科を例として）

インドネシアにおける日本語教育の歴史をみると、日本軍政期の日本語教育およびインドネシア独立後の日本語教育の二つの流れに区別することができると述べられています。日本軍政期の日本語教育のころは特に高等教育機関の学問分野は，理工学系に限られ、日本語が大学で教えられるということはありませんでした。この時期の初等教育における日本語教育にはかなり多くの授業時間数が割かれていたようです。当時の日本語教育では，生徒たちは日本語で書かれた学校新聞や雑誌などを読み，理解することができたそうです。

次にインドネシア独立後の日本語教育を見てみましょう。インドネシアの大学のほとんどはインドネシア独立後に設立されました。総合大学としてインドネシアで最初に日本語教育が開始されたのは 1963 年，パジャジャラン大学です。この大学の日本語学科の設立の目標は、日本語を通して日本の優れた点を学び，インドネシアの発展に寄与する人材を育成することが目的でした。その後，いくつもの大学に日本語学科が開設され、独自の教育目標を持つ大学が増えました。たとえば日本文学と文化に重点を置いたもの，日本からの観光客が増加することを見越して観光関係の日本語に重点を置いたものなどもできました。（ナンダン：2006）。

実は、当インドネシア教育大学も、もともとはパジャジャラン大学の教育学部として設立されたのだが、1963 年に分離したものです。日本語学科は 1965 年に設置されました。

インドネシアの大学設立の目的は、研究、教育、社会奉仕の３つの柱が挙げられます。大学は総合大学と教育大学の２つに大別できます。

総合大学での日本語教育には３年制ディプロマコース（これは学位取得を目指さないコ

ース)、４年制学士課程，大学院修士課程(２年)と博士課程(３年)といったコースがあります。普通、教育大学には，ディプロマコースは設置されません。

ディプロマコースでは，実用日本語が中心に教えられており、そのため，言語学の基礎理論や一般科目の比重は，必修単位数１１０単位の２０％ほどに抑えられています。ディプロマコースは大学によって，観光日本語，翻訳，ビジネス日本語などの特徴づけがなされています。それから、学士号取得を目指す４年制課程では，日本語能力養成系の科目は第 6 学期までで，第 7，第 8 学期からは，日本語学，日本文学，日本史，観光の日本語などの専門科目が教えられる大学が多いです。また、多くの大学で 1 学科につき，日本語学と日本文学といったように２つの専攻が用意されています。履修単位数は 144 単位から 150 単位ぐらいであり、卒業論文を日本語で書くかインドネシア語で書くかは大学の方針によって異なります。

教育大学系の大学の日本語教育の行われ方は総合大学の場合と多少性質が異なっています。教育大学の基本的使命は，高等学校の日本語教師を養成，輩出することであり，カリキュラムも日本語教育に力点がおかれています。卒業論文の内容も必然的に，インドネシアの日本語教育の問題に関連するものが多くなっています。(ナンダン：2006)。

報告者が所属するインドネシア教育大学は全インドネシアの旧教育系国立大学の多くが総合大学に移行する中、唯一名称に教育という文字を残している大学です。以前はバンドン教育大学という名称でした。日本語学科(学部/修士課程)も文学や語学専攻ではなく、日本語教育が専攻です。1965 年の講座設立以来、中等教育、高等教育を問わず、インドネシア各地に多くの日本語教師を送り出してきました。

来日の前に、国際交流基金の山本先生（2010 年 3 月 2 日）に簡単にインタビューしました。質問の内容は日本人教師から見たわが大学の学生の日本語の問題点についてですが、大体、二つに分けることができると思います。一つ目は教授法の問題、もう一つは母語干渉についてです。教授法に関してはインドネシア人の講師が親切に日本語を教えすぎるため、その結果、学生は「受身的な姿勢」となりました。「自分のアイディアを出すことがあまりない、自立的に勉強しようとする意欲があまり出てこない。」などと指摘されました。ただし、「インドネシアの学生は発表のようなパフォーマンスの能力は高い。」と述べています。また、一番弱い日本語能力は「聴解力」と「漢字の能力」であり、また「やりもらい表現」、「受身形」、「使役形」、希望を表す「タイ」などの誤用が多いとも指摘されました。これからの課題としては言うまでもなく、日本語とインドネシア語との対照研究が非常に大切です。例えば、日本語の「タイ」とインドネシア語の「ingin」との対照研究などです。また、山本先生はよくインドネシア人学習者の多くが産出する誤用として次のような例を挙げました。

番号	日本語	インドネシア語
1	① わたしが書いたら、どうでしょうか（意味が分からない） ② わたしが書きましょうか。	Bagaimana kalau saya yang menulis... 問題点：インドネシア語「kalau」と日本

	（自然な言い方）	語「たら、ば、なら」との使い分け。
2	③ 作り方はどうですか。（不自然） ④ どうやってつくりますか。（自然な言い方）	bagaimana cara membuatnya. 問題点：インドネシア語「bagaimana」と日本語「どう、いかが」との使い分け。
3	⑤ わたしは病気になることができます（不自然） ⑥ わたしは病気になるかもしれません。（自然な言い方）	saya bisa sakit. 問題点：インドネシア語「bisa」と日本語「... ことができる」との使い分け。

さて、現在、本大学には教育学部、社会教育学部、言語教育学部、工学教育学部、体育教育学部、理学教育学部、経営学教育学部の７学部に計 28 学科、44 専攻が設置されており、大学院博士課程まで備えています。学生数は全体で約３万７千人で、うち日本語教育学科の学部生は 429 人です（2008 年度現在）。日本語教育学科が設置された 1965 年当初は、文芸教育学部でしたが、現在では言語教育学部の学科の一つです。本学卒業生は、小中高校の教員になる者が多いですが、日本語教育学科においては、高等学校の日本語教師の養成を主な任務としています。留学生との交流も盛んで、日本の大学との交流もありますが、今後もさらに充実させていきたいと考えています。

現在、日本語の教師は筆者を含めて、１８名が所属しています。また国際交流基金より日本語教育専門家が１名派遣されています。ここでは日本語の専門家の任務は主に授業の担当、その授業以外には学科内の教師と一緒に勉強会を行い、初級の文法から指導上の注意点などをまとめて、発表、意見交換といった形式で進められています。その他に学科会議に出席したり、シラバス、カリキュラム等のアドバイスや学生からの質問に答えるなどのコンサルティング業務も行われています。その他の業務はバンドン地区にある各大学の日本語学科を訪問し、問題点などを話し合い、特に若手の先生の授業を見学し、よりよい授業を目指して意見交換を行っています。

また、インドネシア日本語教育学会西ジャワ支部の活動にも支援が行われています。この地域の先生方と一緒に行う勉強会（技能別教授法や日本事情の他に、先生方の研究発表なども取り入れた日本語教授法の勉強会、日本語能力向上勉強会、また、最近では日本語で論文を書くための勉強をしたい、という教員のための論文研究会が行われている）や、年に２回発行されるニューズレター「MEDIA KOMUNIKASI“わ”」にも協力しています。これは西ジャワ支部の学会誌のようなものです。そのほかに、年１回の支部セミナー、メーリングリストをはじめとする地域支援ネットワーク作り等、西ジャワ地域全体の日本語教育のさらなる発展をめざし、様々な形で支援を行っています。（山本、２００７、参照）。

当大学日本語教育学科のカリキュラムは大別にすれば、一般科目１４単位、教育と関連のある科目は３４単位、必修科目は８０単位、選択科目は２０単位で、卒業論文は８単位

で、合計１５６単位です。卒業時に日本語能力試験 2 級程度の能力の獲得が目標ですが、現実には卒業時の平均的な日本語能力レベルは平均すると２級と３級の間です。かれらの卒業後の主な進路は一般企業の日本語教師や翻訳者や高等学校の教師です。
留学生交流に関する活動では、特にオーストラリア、日本、アメリカ、フランス、ドイツなどの大学との学生交流を行っています。インドネシア語の学習の他、文化交流や、共同研究も行われています。日本の大学や財団との交流には例えば、筑波大学、広島大学、Sasakawa Peace Foundation, 国際交流基金、文部科学省、The Nippon Foundation (Global Foundation for Research and scolarship), JICA Japan, Osaka In The World Committee などがあります。

２．個人的な経験から

私は日本語を勉強しはじめたのは 1977 年です。当時、バンドン教育大学（現在：インドネシア教育大学と言う）日本語学科で勉強していました。同級生の数は 45 名ぐらいです。ほとんどの友達は高等学校で日本語を勉強したそうですが、わたしの場合は、日本語の勉強のどころか、聞いたこともなかったぐらいです。当時、私の知っている日本語は「ホンダ」や「ヤマハ」「味の素」などのような言葉でした。

確か、当時の新学期は 7 月で体験したことです。ルンルン気分で、新入生の生活をしはじめたころ、最初の日は自己紹介やカナ文字を勉強しはじめました。高等専門学校（電気専攻）を卒業した私にとっては最初の一学期はまるで、森の中で生活しているような気がしました。あるいは、当時の日本語の勉強はまるで暗闇の中で歩けるような気がして、殆ど分からなかったのです。カナ文字を覚えるのに、３週間もかかりました。苦労していました。なぜなら、カナ文字には似ている文字がたくさんあるからで、なかなか覚えられませんでした。そこで、自分なりに工夫してみました。それは、各文字を何回も写し、部屋の壁やドアの後ろ、部屋の天井、たまにはトイレのドアに貼って、毎日見ました。やっと、知らないうちにかな文字を覚えるようになりました。私の部屋には文字ばかりで飾っていました。漢字の勉強もそのようにしました。

ところが、友達の部屋にはだいたい歌手の写真や自分の好きなスポーツマンなどで飾っていました。一年間も経って、やっと日本語を勉強する意欲が出てきて、いつのまにか日本語が自分の物にしたいという気持ちが強くなってきました。その狙いは将来、「日本語の先生になりたい、日本へ行きたい」、この二つの希望が私の心に描いており、決心したものです。早い話ではやっと、1982 年に卒業し、日本に留学する機会があったのです。

そこで、私は日本という国の名前を聞くたびに、この 28 年前のことを懐かしく思い出します。なぜかというと、そのころは私がはじめて、日本に留学したからです。確か、1982 年でした。留学先は広島大学教育学部でした。広島大学で日本語を勉強することができたということは私にとって大変意義のある体験でした。これは一生、私の心に忘れられないいい思い出として残るでしょう。何と言っても、一番印象的なのは、留学生による日本語のスピーチコンテストに参加した時のことです。私は、「銭湯で習う日本語」というタイトルで、発表しました。それから、１９９３年の大阪での「外国人による日本語スピーチコンテスト」にも同じテーマで発表したことがあります。その時の発表の中身を紹介したいと思います。

最初の段落でこう言いました。

「留学生が日本語を勉強する場所はいろいろありますが、私にとって、一番好きなのは銭湯です。しかし、はじめて銭湯に行った時の、あの不安な気持ちは今でも忘れることができません。」と言いました。

みんなさんは日本の生活をはじめたばかりの外国人が一人銭湯に出かけたらどんなことが起こると思いますか。

下宿に引っ越した最初の日でした。私はとうとう一人で銭湯に出かけることになりました。「男」と書いてあるドアをあけて勇気を出して中へ入りました。でも、何から始めればいいのか分かりません。私は隅に立って、しばらくは他の人の様子を観察していました。

不思議なことに私がジーッと見ているのにみんな平気で裸になって風呂場へ入っていきます。「よし、恥ずかしいと言っても、男同士だ」、そう思って、私も洋服を脱ぐことにしました。はじめて、人の前で裸になる時の気持ち、分かりますか。ふと、番台のおばさんと目が会いました。すると、おばさんはにっこりと笑ったのです。私は思わず、顔がカット熱くなって、クルリと壁のほうをむいてしまいました。緊張して指は動かないし、ボタンを外すのにとても時間がかかりました。

風呂場には入りましたが、さあ、どこに座ったらいいかわかりません。初めての不思議な世界の中で私の頭はすっかり混乱して、ごちゃごちゃになってしまいました。やっと、隅ののほうに座って、周りを見ると、ひげをそる人、体を洗う人、頭を洗う人、湯船の中にいる人、みんながチラッチラッと私を見ているような気がして、体がコチンコチンでした。ちょうど、その時、そばにいたおじいさんが湯船に入りました。私もつづいてザブンとお湯の中に飛び込みました。その瞬間、体中の皮膚がひりひりして、羽をむしられた鶏のようになりました。

とうとう、30 秒も我慢ができないで、私は湯船から飛び出してしまいましたが、しばらくは目の前に黄色の星やうずまき模様ばかりがぐるぐる回っていました。少し、休んでから、体を洗うことにしました。タオルにせっけんをつけてこすると、面白いように泡がたちます。

私は体全体に満遍なく泡をつけました。さあ、このぐらいでいいだろう。もう一度挑戦です。今度は落ち着いてゆっくり入るつもりで湯船に足をかけた時です。「体をあろうて、はいらにゃあ！」泡だらけの私の体を誰かがぐいっと引っ張りました。「にゃあ」という声だけが聞こえて、全然意味は分かりませんでしたが、その分陰気から、せっけんをつけたまま、お湯に入ってはいけないことに気がつきました。しかし、とにかく、私は生きて下宿へ帰ることができました。

ところで、銭湯で話されている言葉は不思議な言葉でした。銭湯で、初めて他の人と話した時のことです。私は頭を洗おうとしていたら、「あんたあ、なんぼうね」と聞かれました。「ええ！なんぼう？」、その時、私はちょうどシャンプを持っていたので、「ああ、200 円です。」と答えました。その人は大声で笑い出しました。

はじめのころは「〜のう」とか「〜にゃあ」とか「じゃけん」と言った音ばかり聞こえました。その頃、私の知っていた日本語では「のう」は「のうみそ」、「にゃあ」は猫の鳴き声でした。「じゃけん」は「じゃんけん」のように聞こえました。しかし、大人の日本人が毎日銭湯で、「脳みそ」や「猫」や「じゃんけん」の話ばかりするはずがありません。また、ある時は、突然、「馬が合うのう」という声が聞こえたので、二等の馬が出会う話かと思いました。

今ではある程度、それらが広島弁であることも気が合うという意味であることもみんな分かるようになりました。

銭湯の言葉にも少し慣れてきたころ、私は一つの発見をしました。それはお風呂で、話す時、大体人々がほとんど私の顔を見ないこと、そして、「はい」という言葉を使わないということでした。その代わりに、「ううん、ううん」というのです。この大発見でもっと日本人らしく話せるぞ、と思ったら嬉しくなりました。ルンルン気分で、大家さんのところに行って、さっ

そくためしてみました。しかし、はじめはニコニコしていた大家さんの顔がだんだん真面目になりました。奥さんが後ろの方でクスックスッと笑っています。大家さんはとうとう我慢ができなくなって、「アハマッドさん、ちゃんと「はい」と言ってください。」。

今ではお風呂に行くと、うちに帰った時のように安心した気持ちになります。仕事や生活、また、国籍が違っても、そこではみんな同じ一人の人間です。暖かいお湯の中で、一日の疲れを忘れ、普段の言葉で語り会うことができます。その言葉の表情にはいつもは洋服の中に隠されている日本の人々の裸の心ももっとよく感じることができます。

はじめて、裸になった時の不安で、あのいたいような気持ち、あの恥ずかしい気持ち、あの頃は私自身も私の心にやっぱりに目に見えない洋服を何枚も着せていたのかもしれません。銭湯は私に心の洋服を脱ぐことを教えてくれました。この何十年間、私は日本の人々との出会いから始まり、生活観の違いに戸惑いながらも、次第に民衆の生活そのものを深く知ってゆく中で、結局は泣いたり、怒ったり、笑ったりするこの人々が懸命に生きていることがわかるようになりました。今では、初めての人に私は気軽に声がかけられるようになりました。銭湯で、背中を流し合いながら、誰とでも飾り気のない心で話し会うことができるようになりました、

これからももっと日本語を勉強していきたいと思います。

以上でしたが、一番印象的なのは「はじめて、裸になった時に、番台のおばさんと目があった時です。それから、あの時の緊張感、出席者の日本人のみなさんの拍手の響き、先生方の表情をはじめ、知り合いの日本の人々の声など、いまでも目の前に浮かぶようです。留学生による日本語スピーチコンテストに参加したことは、私にとって、大変な励みになりました。今でも参加してよかったと思っています。スピーチコンテストに参加したときは、自分が優勝したいとか有名人になりたいとかはいっさいありませんでした。私が心の中に描いていたことはただ一つ、「勉強する」という目的だけでした。

あれから、２８ 年も経ちました。私の心には、「日本語をもっともっとマスターしたい、日本語を通じて、日本語や日本の文化を知りたい、」という決意はいまでも変わっていません。「ある国のことを知りたければ、まずはその国の言葉を知ることです。もちろん、日本語ができなくても、時間の経過とともに日本人の心や日本の文化をある程度理解することができ、ある程度分かるようになってくると思いますが、本当の日本人の価値観を知りたければ、日本語をマスターすることが不可欠であることは言うまでもない」と広島大学での留学の時に強く認識しました。日本語ができるからこそ、私は日本に行ったり来たりすることができるようになったのですから。

結び

以上、インドネシアにおける日本語教育に関して、簡単に紹介してみました。多くの学習者が日本語を学ぼうと思ったきっかけには多くのバリエーションがあり、その中の一つとして日本語の教師をあげる学生も少なくありません。現在では、日本語教育を中心とする大学はわがインドネシア教育大学、スラバヤ国立大学（1984 年設立）およびマナド国立大学（1984 年設立）の三つの大学があります。この三つの大学はインドネシアにおける日本語教育の中心的・指導的存在の大学といえるでしょう。全インドネシアにおける高等学校での学習者は年々増えつつあるため、この三つの大学の役割は大きいと思われます。中でも、全インドネシアの国立大学の中で、唯一学校名に「教育」を持つ大学は当大学のみであり、2001 年度にはインドネシア初の日本語教育専攻修士課程も大学院に開設されました。

これまで述べてきたように、本学の日本語教育学科においては、高等学校の日本語教師

の養成を主な任務としています。留学生の交流も盛んで、日本の大学との交流もありますが、それらをさらに充実させていきたいと考えています。また、これからの課題としては日本語とインドネシア語との対照研究をもっと増やすことがでればと思います。

以上で私の報告は終わりです。少しでも皆さんの参考になれば幸いです。ご静聴ありがとうございました。

参考文献

インドネシア日本語教育学会・国際交流基金・パジャジャラン大学日本語研究センター『Southeast Asia Summit on The Japanese Language Education: National Academic Conference 2006 on The Japanese Language Education in Indonesia（東南アジア日本語教育サミット報告書)』.

Informasi Universitas Pendidikan Indonesia 2005

Dahidi, Ahmad (1993) 「歌で学ぶ日本語」(日本語教育ビデオ教材開発の試み)、『視聴覚教材と言語教育』大阪外国語大学ＡＶ技法研究会.

Dahidi, Ahmad (2009) 「インドネシア人学習者に対する日本語教育の課題と展望」,“大阪大学フォーラム 2009：「東南アジアにおける日本語・日本文化教育の 21 世紀的展望　－東南アジア諸国と日本との新たな教育研究ネットワークの構築を目指して－」、クアラルンプール：2009 年 11 月 3 日・4 日。

Nandang Rahmat (2008) 「インドネシアにおける日本語を中心とした外国語教育の実情」,『東南アジアにおける日本語教育の展望』(日本語教育国際シンポジウム). バンコク：2008 年 10 月 16-17 日.（予稿集 pp.5-8）. www.geocities.com/jes2008bkk/06_Panel_5-37.pdf

森西志保子(2005) 「インドネシア教育大学―"バンドン会議"の町から」,『世界の日本語教育の現場から 日本語教育専門家･ジュニア専門家の声』. 国際交流基金. http://www.jpf.go.jp/j/japanese/dispatch/voice/tounan_asia/indonesia/2005/report02.html

山本晃彦(2007) 「西ジャワ地区の日本語教育」,『世界の日本語教育の現場から 日本語教育専門家・ジュニア専門家の声』. 国際交流基金. http://www.jpf.go.jp/j/japanese/dispatch/voice/tounan_asia/indonesia/2007/report02.html

*) 本稿は 2010 年 3 月 20 日、大阪大学箕面キャンパス日本語日本文化センターにて「日本語・日本文化日国際シンポジウム」の発表されたものである。そのテーマは「インドネシアにおける日本語教育の諸問題　－Current Issues in Teaching Japanese Language in Indonesia」である。

附記：

本稿はインドネシア教育大学国際交流基金日本語教育専門家の山本晃彦先生にいろいろなご助言、ご協力をいただいた。ご協力に改めて感謝を表したい。

添付ファイル

１．日本語教育学科の教育方針・教育目標

a 日本語能力試験を中級の程度まで

b 日本語教師を

c 日本語教育の専門家を

２．日本語教育学科の学生数：540 名（2010 年～現在）

３．過去三年間の日本語教育学科卒業生の進路

Ｎｏ．	就職類	2007 年（74 名）	2008 年（73 名）	2009 年（78 名）
1	高等学校の日本語の教師	12	21	15
2	大学の日本語の教師	5	8	13
3	民間学校の日本語教師	8	11	4
4	日本語合弁会社	13	15	20
5	学校以外政府の教育機関	3	3	0
6	その他	3	2	0
7	不明	3	13	26
	合計	47	73	78

３．過去三年間の日本語能力試験結果

	レベル	受験者数	合格者数
2007 年	4 級	４５名	３２名（７１％）
	3 級	１５５名	５９名（５１％）
	2 級	１１５名	４名（３％）
	1 級	１４名	１名（７％）
2008 年	4 級	６０名	４２名（７０％）
	3 級	１６８名	７８名（５６％）
	2 級	８９名	７名（８％）
	1 級	１３名	１名（８％）

2009 年	4 級	６５名	未発表
	3 級	１６４名	未発表
	2 級	１２３名	未発表
	1 級	１５名	未発表

４．日本語授業用既存教材リスト

Ｎｏ．	書名	筆者	出版社	出版年	学年
1	初級日本語文法１	日本語教育学科のスタッフ	日本語教育学科	2007	一学期（1年生）
2	初級日本語文法２	日本語教育学科のスタッフ	日本語教育学科	2007	二学期（1年生）
3	中級日本語文法１	日本語教育学科のスタッフ	日本語教育学科	2008	一学期（２年生）
4	中級日本語文法２	日本語教育学科のスタッフ	日本語教育学科	2008	二学期（２年生）
5	初級日本語会話１	日本語教育学科のスタッフ	日本語教育学科	2007	一学期（1年生）
6	初級日本語会話２	日本語教育学科のスタッフ	日本語教育学科	2007	二学期（1年生）
7	初級日本語読解１	日本語教育学科のスタッフ	日本語教育学科	2007	一学期（1年生）
8	初級日本語読解２	日本語教育学科のスタッフ	日本語教育学科	2007	二学期（1年生）
9	初級日本語作文１	日本語教育学科のスタッフ	日本語教育学科	2007	二学期（1年生）
10	初級日本語作文２	日本語教育学科のスタッフ	日本語教育学科	2007	三学期（２年生）
11	初級日本語表記１	日本語教育学科のスタッフ	日本語教育学科	2007	一学期（1年生）
12	初級日本語表記２	日本語教育学科のスタッフ	日本語教育学科	2007	二学期（２年生）
13	中級日本語ニューアプローチ				2 年生
14	上級日本語ニューア				3 年生

	プローチ				
15	新日本語の中級		AOTS		3 年生
16	毎日の聞き取り 50 日上		凡人社		1 年生
17	毎日の聞き取り 50 日下		凡人社		2 年生
18	日本語で学ぶ日本語				3 年生
19	日本語上級読解		アルク		4 年生
20	日本語作文１		専門教育出版		2 年生
21	日本語作文２		専門教育出版		3 年生